

学校法人尽誠学園
香川短期大学
機関別評価結果

平成 25 年 3 月 14 日
一般財団法人短期大学基準協会

香川短期大学の概要

設置者	学校法人 尽誠学園
理事長	大久保 直明
学 長	石川 浩
A L O	日野 明世
開設年月日	昭和 42 年 4 月 1 日
所在地	香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁 10 番地

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
生活文化学科	生活文化	40
生活文化学科	食物栄養	50
生活文化学科	生活介護福祉	40
子ども学科第Ⅰ部		60
子ども学科第Ⅲ部		40
経営情報科		60
	合計	290

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	福祉専攻	30
	合計	30

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

香川短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成25年3月14日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成23年6月30日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、地方に立地する短期大学であり、建学の精神「愛敬誠」を教職員と学生が一体となって具現化して、地域の高等教育機関としての役割を十分に果たしている。少子化が進行する中、収容定員620名を収容する短期大学であり、収容定員をおおむね充足している。

当該短期大学を設置する学校法人尽誠学園は、善通寺市の尽誠学園高等学校、高松市の香川誠陵中学校・高等学校、宇多津町の香川短期大学及び附属幼稚園等を有している。その規模は大きく、また古い歴史を有する総合学園である。

当該短期大学は、高校生や保護者への情報発信及び公開を適切に行っている。入学後に、何を学びそしてどんな学習成果が得られるのか、また、どんな資格を取得できるのか、さらに、その学習成果や資格を生かせる就職状況がどうなのかといった魅力を、明確な形で発信している。そして、その情報に基づいて、高校生や学生自身が当該短期大学で学ぶことへの十分な期待を持つことや、当該短期大学がその期待に応えるような学習成果の獲得に向けた努力をしている。

中央教育審議会の答申による審議結果を基に、当該短期大学が取り組むべき課題については必要に応じて印刷物やFD活動の会議等で議論をして、全教員が自己点検・評価の取り組みに参加している。

経営情報科、生活文化学科生活介護福祉専攻課程において、近年は入学者数が定員を割り込んでいる。介護福祉士資格取得者の卒業生は、世相を反映して高い就職率を維持している。

学位授与の方針に対応して教育課程編成・実施の方針は明確に示されており、学生にとって学びの状況や学習成果の獲得を知る上で有効な手引きとなっている。また、各教員は学習成果の具体的な記述を工夫し、シラバスに記載している。入学者受け入れの方針は、入学後に必要とされる能力や適性を、受験生自身が事前に判断できるような具体的なものになっている。

教員組織は、いずれの学科及び専攻課程においても適切に編成され、専任教員の配

置数は短期大学設置基準を満たしている。また、専任教員の教育上での活動にふさわしい教育実績、研究実績、優れた制作物や、卓越した成績を持つ実技実績等を有している。事務組織には適切な人員が配置され、学生の学習成果向上に資する意識が常にある。

校地・校舎の面積は、短期大学設置基準の規定を満たしている。授業に必要な講義室、演習室、実験・実習室、情報機器等が適正に整備され、また図書館の書籍・雑誌も整備され、利用者の便宜を図って土曜日の開館を実施し、大いに活用されている。

学内の教育環境は、学内の LAN の整備、コンピュータ実習室の設備等、短期大学教育を行うのに十分な設備を整えている。情報機器に精通した教員が多く、新しい情報機器とその管理体制も確立している。また、学生のためのキャンパス・アメニティはよく整備されており、進路支援については、就職進学部とクラス担任が連携して、手厚くきめ細やかな指導をしている。各学科の専門性を生かした就職はおおむね達成されている。

当該短期大学は財務上もおおむね健全であり、教育研究経費は標準的な水準を維持している。また情報管理等技術資源や施設の整備が行われている。

理事長は学園全体を掌握し財政の健全化に努め、学長もリーダーシップを発揮している。

理事会及び評議員会は寄附行為に基づき、それぞれ意思決定機関及び理事会の諮問機関として適切に運営されている。監事も寄附行為に基づき、適切に業務を執行している。理事の構成においても、偏りなくバランスが取れており、管理運営体制は確立されていてガバナンスが機能している。

学生が自ら求める授業の改善や学生支援に力を注ぎ、当該短期大学の魅力が地域の高校生に理解されるように、将来計画の達成のために、理事長・学長のリーダーシップを発揮し、優れたガバナンスが維持されていくことを期待する。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準 I 建学の精神と教育の効果

[テーマ B 教育の効果]

- 建学の精神に基づいて掲げられた三つの方針を当該短期大学全構成員が共通の認識を持ち、各学科及び専攻課程が教育の目標を定め、具体的にどのような人材を養

成するのかを明確にして、学生のみならず広く学内外に公表している。また学生の学習成果の獲得が目に見えるように工夫している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ B 学生支援]

- 各学科及び専攻課程やコースごとにクラスアワーを時間割上に設定し、教員を配置して、日常的な学習相談や生活上の相談、就職支援や編入学指導や課外活動の支援などきめ細かく行われている。特に進路支援対策として、就職進学部とクラス担任が連携して、個別支援を行っている。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

[テーマ A 理事長のリーダーシップ]

- 理事長は学園全体としての将来展望のもとに、幼稚園・中学校・高等学校の系統的な生徒の確保に強力なリーダーシップを発揮している。

[テーマ B 学長のリーダーシップ]

- 学長は、大学内での運営上の諸問題を解決するに当たっても、教職員の意見だけでなく、広く意見を取り込むために教育推進協議会を設けている。当該短期大学の重要な案件について、学内外からの適切な意見を取り入れ、大学運営に反映させている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- シラバスは、教員によって記載内容の具体性に差があり、また科目ごとに統一されていない面がみられるので、当該短期大学全体で統一を図るよう検討されたい。

[テーマ B 学生支援]

- 「学生による授業改善アンケート」について、アンケート対象科目の増加や、アンケート結果については、学生の意見・要望に対しての教員の見解や改善のための方策等について所見を取りまとめ、各学科、専攻課程・コースごとや当該短期大学全体で結果を考察し、組織的に活用することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

学校法人尽誠学園は明治 17 年に開塾された忠誠塾を基にして創立され、当時の建学の精神の「誠」に原点を置いて昭和 42 年に開学した。当該短期大学は、建学の精神として「愛 敬 誠」を定め、その建学の精神を具現化することに教育の理念を定めている。この建学の精神の下で、すべての教職員・学生が一体となって教育活動を進めている。その実践に当たっては常に内容を見直し、教育の内容は変わってもその根底にある教育の原点はこの建学の精神に置かれ、全構成員が常にこの建学の精神を理解し合い、日々の業務に当たっている。

また、この建学の精神は理事長や学長、及び学科長が諸行事やオリエンテーションなどの日々の講演や講話等で折に触れて話しており、出版物や印刷物によって学外にも広く表明している。

各学科、専攻課程ともに建学の精神に基づき教育目標を明確にして、広く学内外に広報し、大学のウェブサイト、大学案内、学生便覧に明確に示している。教育目標は、具体的に「学校がどのような人材を養成するのか」「これを履修することによって何ができるのか」等を明確に示している。また、全教員が共通の認識の下で教育に当たっている。

シラバスの中では、教育目標と獲得すべき学習成果を明確に示している。その内容はそれぞれ建学の精神に基づき、その精神を具現化する上でなされている教育活動がどのような形で学習成果として表れるのかをよく理解することができる。成果を可視化するような試みや、在学中・卒業時に取得可能な資格を設けていることは学生の勉学意欲を刺激することに繋がる。

学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の公文書類は全教員に回覧・学内メール等で周知し、重要な文書については配布し学科会等を通して全教員へ周知及び理解を図っている。また、授業改善についても、その根拠となる学習成果の査定の制度を確立している。特に、平成 22 年度の改善点を平成 23 年度で取り上げ、その見直しを行っている。そのために各教員が PDCA のサイクルが上手く機能することに努めている。

香川短期大学大学評価実施規程に基づき自己点検・評価委員会を設置して、全学で自己点検・評価に取り組んでいる。また、平成 21 年度、平成 22 年度については、本

協会の評価基準に基づく自己点検・評価を行い、報告書にまとめて公表している。中央教育審議会の答申による審議結果を基に、当該短期大学が取り組むべき課題について必要に応じて印刷物や FD 活動の会議等で説明し、議論をして全教員がその取り組みに何らかの形で参加している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針は明確に学生便覧及びウェブサイトに掲載され、広く学内外に公表している。

教育課程編成・実施の方針が、学位授与の方針に対応して明確に示され、学生にとって学びの状況や学習成果の獲得を知る上で有効な手引きとなっている。適切な教員配置により、質保証に向けた厳格な学習評価が可能になっているが、一部の教員の事務部門との兼務や、専門科目の専任教員の充実等に課題がある。

入学者受け入れの方針は、入学後に必要とされる能力や適性を、受験生自身が事前に判断できるような具体的なものになっており、その理解度を各入試の選抜基準に加え、入学者のこれまでの学習成果に配慮した教育が実施されている。

各教員は学習成果の具体的な記述を工夫し、シラバスに明確に記しているが、統一性のある評価基準の調整が必要である。資格取得を目標とする学科や専攻課程では、学習成果は測定可能であるが、学科や専攻課程によってはシラバスや日々の講義等から学習成果の測定が難しい。学習成果を一定期間内で獲得することが難しい学生に対して、学科をあげて個別指導体制をとっている。

各学科の専門性を生かした就職はおおむね達成されている。就職先からの評価は、より系統的、組織的かつ詳細に聴取することが望まれる。

教員及び事務職員は、学習成果の獲得に向けて誠実に業務を遂行している。学内の教育環境は、学内 LAN の整備、コンピュータ実習室の設備など、短期大学教育を行うために十分な設備を整えている。また、教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ講習会を実施して利用技術の向上を目指す努力をしている。入学時や学期の初めには、学習の動機付けの講話や履修に関するオリエンテーションなど、きめ細やかな指導が行われている。学生のためのキャンパス・アメニティや通学支援体制はよく整備されている。また、学生の健康管理や悩みを持つ学生に対して、組織的に支援する体制が整えられている。進路支援については、就職進学部とクラス担任とが連携して、手厚くきめ細やかな指導を行っている。入学者受け入れの方針については、大学案内、ウェブサイト等で各学科及び専攻課程の教育目的・教育目標を明示している。入試選抜については、多様な選抜を公正かつ正確に実施している。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

学生の減少期にある中で、当該短期大学が特に力を入れている学科及び専攻課程では短期大学設置基準以上の教員を配置して、学習成果の質の向上に大きく貢献している。

また、教員が学内外において研究成果を上げ、研究活動の状況を公開している。発表公演や作品制作等に関する業績はあるが、著作物や論文発表・執筆に関してはやや低調であるので、今後改善されることが望まれる。幾つかの分野では外部資金や科学研究費補助金等を獲得している。

FD活動は、FD委員会規程に基づいて行われているが、教育方法及び授業改善等に結び付く内容の充実が望まれる。

事務組織には適切な人員が配置され、学生の学習成果向上に資する意識が常にある。また、情報機器に精通した教員が多く、新しい情報機器とその管理体制が確立していることは、学生にとって何よりも心強い環境にある。

介護・幼児教育の学科特有の施設・設備も整備され、整理・整頓・清潔が保たれた環境であり、学生は学習成果の獲得に向けてこれらの施設を大いに活用している。多くの教員が事務の管理職を兼務して職務に当たっている。

財務状況は、法人全体及び短期大学ともに3年連続帰属収支差額が収入超過となっており、おおむね健全である。

近年、生活文化学科の2専攻と経営情報科には、定員充足率に課題がある。過去5年間で平成22年度以降に入学人数・在籍人数が漸減しているため、定員充足のための学生数の確保が最重要課題である。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、昭和58年から理事として尽誠学園の運営にかかわり、学園の幾多の事業にも積極的に参加して、一貫校の設立、当該短期大学の各種事業などにおいて常にリーダーとしての役割を果たしている。平成12年には理事長に就任して当該短期大学に附属幼稚園を開設し、法人全体の発展に尽力している。

理事長をバックアップする理事会の構成も教育関係法令及び寄附行為に基づく適切なメンバー構成であり、定例理事会は年3回開催され、必要に応じて臨時の理事会を開催して諸問題の解決に当たっている。

大学運営は、教授会、各種委員会等の組織の下で、学長が中心になって教学全般にリーダーシップを発揮している。また、広く外部意見を取り入れるため教育推進協議会を設けて学外の有識者からの発言を大学運営に反映させている。

学長は、同学園の理事として学校法人の運営に参画するとともに、当該短期大学における教学面での最高責任者として、理事長の負託に応えて職務遂行に努めている。

管理面においては理事長と学長のリーダーシップの下、管理職を学生との対話が多い教員に兼務させることにより、機能的な事務体制をとっている。これは、過剰負担の懸念もあるが現時点では上手く機能している。学長を中心に学校運営は適正に運営されている。理事会等学校法人の管理運営体制は、寄附行為等に基づき、理事長のリーダーシップが適切に発揮される体制となっている。理事会及び評議員会は規定に基づき、それぞれ意思決定機関及び理事会の諮問機関として適切に運営されている。監事も規定に基づき、適切に業務を執行している。理事の構成においても、偏りなくバランスが取れており、管理運営体制は確立されていてガバナンスが機能している。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

地域貢献の取り組みについて

総評

この地域の高等教育機関として、当該短期大学は大きな地域貢献をしている。高齢化・少子化の進行する中、増加する高齢者をどう支えていくか、若者をどのようにして地域で育て、地域に定住させたり引き戻すかが問われている状況下で、当該短期大学が取り組んでいる講習会や研修会などの活動は、いずれも教育理念に沿うものである。このような事業等を通して地域の学術的な雰囲気が芽生え成熟することで、生活水準の向上に合わせ、住民の大学への勉学意欲に応じた高度な内容や専門知識の獲得に繋がり、地域住民の大学への期待も一段と大きくなる。

地域交流センターを設置して、この施設を地域への教育サービスの窓口として、中・高年者だけではなく、すべての地域住民を対象とした多くの講座、講習会なども開かれている。将来のまちづくりなどの担い手となる若者を対象とした集いや社会の流れに沿った内容の講習会等も積極的に行っている。将来の学生の地域への就職や地域に貢献する人材育成などを配慮すれば、今後学外の地域の諸団体との連携及び協働の作業、奉仕活動において教育的に有益なものであれば積極的にかかわっていくことが望まれる。

単に住民への講習会や研修会を実施するだけでなく、学外において地域住民とともに、行事や地域の協働作業に参加することも意義のあることである。教職員の行政の審議会や各種委員会及び専門家会議等への参加や学生のボランティア活動への参加が、今後更に積極的に行われることが期待される。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 地域に密着した地域貢献を念頭に置いた取り組みが、各学科・専攻課程で行われている。特に、今後の高齢化・少子化が進行する中で、生活介護福祉専攻課程の介護技術講習会、介護福祉士国家試験受験対策講座、事業所で働く人へのスキルアップ講座などの講習会を積極的に行っている。高齢者介護の必要性ややりがいについての地域の住民への広報活動は、今後、地域で急増することが考えられる介護を必要とする人々を支える人材となる介護福祉士の需要に応えることに繋がっていくこ

とになる。

- 少子化が進み、地域での子育てが難しくなる中、親子での繋がりを深める取り組み「親子料理教室」、地域の住民に対する「おもちゃインストラクター養成講座」、「セーフキッズセミナー」などは住民のニーズに適った取り組みである。
- 経営情報科の学生の作品デザインを地域の物産のパッケージに活用したり、歴史的な背景を基にした宇多津町との連携による「平成相聞歌—メールで恋の歌を」の事業など、全国的な事業として展開されている若者が集う文化のまちづくり等への学生の参加は、地方の短期大学の取り組みとして大きな意味がある。